

進行管理の仕組みについて

1. 概要

「PDCA サイクル」に基づく進行管理を実施し、各施策・事業等の取組内容について検証・見直しを行うことで、計画の実効性を高め、効果的・効率的に推進します。

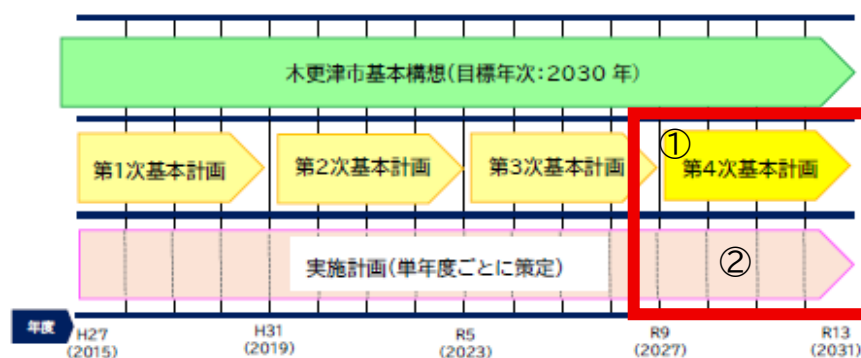


2. 対象

- ① 基本計画に掲げた48の「施策」
- ② ①の下で展開される「重点事業」

重点事業：未来を見据えた計画的な行財政運営に向けて、「中期財政計画」との整合を図り、4か年に重点的・優先的に取り組む事業を重点事業として位置づけ、実施計画に掲げます。

- ③ ①から地方創生の推進に向けた取組を分野横断的に抽出した「総合戦略」



3. 実施方法

①施策

当該年度終了後、各施策の「主な取組」に設定した指標の達成状況を把握します。その結果を踏まえ、施策全体として「めざす姿」の実現にどれだけ近づいたかを総合的に評価します。

評価結果は速やかに公表するとともに、施策の方向性や取組内容の改善に繋がっていきます。

②重点事業

①の施策評価の結果も踏まえ、個別の「事業（新規事業・継続事業）」についても、当初予算編成前に改めて、その現状と成果、課題を検証します。

この検証結果に基づき、施策の推進に向け実施計画への採択及び見直しを総合的に判断します。

この判断を次年度の「市政運営の基本的な考え方」や「予算」等に反映させることで、計画の継続的な改善へと繋がっていきます。

③総合戦略

各基本目標においては「第3期総合戦略」からの継続性を踏まえた数値目標を設定し、基本的方向においては「第4次基本計画」との関連性が高い施策の指標を用いて重要業績評価指標（KPI）を設定します。

進捗状況を総合的に分析することで、地方創生に向けた取組全体の成果と課題を明らかにします。

4. 評価基準

①施策

各取組の指標達成状況を踏まえ、施策全体の進捗状況を3段階で評価します。

A 目標達成または順調に進捗している

B 概ね順調であるが、より一層の取組（施策）の推進が必要（目標達成に向け一定の進捗がある）

C さらに重点的な取組（施策）の推進が必要

②重点事業

当該年度の実施計画に対し、事業の取組状況を3段階で評価します。

○ 実施計画書のとおり実施

△ 事業の見直しや繰越等により、実施計画どおりには実施できなかった

× 事業の見直し等により、中止もしくは休止した

③総合戦略

設定した数値目標、重要業績評価指標（KPI）に対する進捗を客観的に観測することで、地方創生施策の進捗を多角的に把握します。

5. 評価の流れ

各施策の主担当課、または事業、総合戦略の担当課で1次評価を行います。

企画課でとりまとめ、2次評価を行った後は、木更津市総合計画審議会、政策調整会議、総合政策会議、市議会定例会（総務常任委員会協議会、議員全員協議会）で説明を行い、市公式ホームページにおいて公表します。